

①稲葉 海哉（イナバ カイヤ）選手



高津区在住。1999年9月29日生。昨年川崎にて行われたAJRU（アジア選手権）では所属チームのマイケルの一員として総合優勝という快挙を成し遂げた。ロープスキッピング全日本選手権では6連覇を達成し2021年のオンラインでのジャンプロープの世界大会でも総合優勝を果たすなど今大会でも注目選手。

（出場種目）

・個人戦…
シングルロープ個人30秒スピード
・団体戦…
ダブルダッチペアフリースタイル

②李 大樹（リ ダイキ）選手



1998年9月20日生。昨年のアジア選手権では男子団体総合で金メダルを獲得。競技者として活動すると同時に、指導も行っており、カワサキ文化会館でも自身の練習や指導を行っている。現在は、ジャンプロープを普及するために日本国内だけではなく、国外でも様々な活動を行っている。

（出場種目）

ダブルダッチスピードスプリント
ダブルダッチスピードリレー
ダブルダッチシングルフリースタイル
ダブルダッチペアフリースタイル

※市在住選手は①のみ、
②～⑧は、カワサキ文化会館で個人やチーム練習を実施、④⑤は同会館のスクールで子供達に指導を実施している。

③チーム名 FORTH（フォース）



FORTHは、DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD で2017年から3連覇を果たした伝説のプロダブルダッチチームREG☆STYLE（レグスタイル）のメンバーのKAI（市川快選手）が率いるチームで、メンバーは市川選手のほか、柴田恵理選手、白井冬馬選手、杉本春樹選手、工藤美怜選手の5人。カワサキ文化会館でチーム練習を行っており、市川選手と柴田選手は、同会館のスクールで子どもたちにジャンプロープを教えている。

（出場種目）

ダブルダッチスピードスプリント
ダブルダッチスピードリレー
ダブルダッチシングルフリースタイル
ダブルダッチペアフリースタイル

④市川 快（イチカワ カイ）選手



1992年1月31日生。プロダブルダッチチーム1998年11月12日生。昨年川崎にて行われたAJRU（アジア選手権）にて金メダル2個、銀メダル2個を獲得する快挙を成し遂げた。カワサキ文化会館のスクールや市内小学校での体験会でも子どもたちにジャンプロープの楽しさを教えている。

（出場種目）

ダブルダッチスピードスプリント
ダブルダッチスピードリレー
ダブルダッチシングルフリースタイル
ダブルダッチペアフリースタイル

⑤柴田 恵理（シバタ エリ）選手

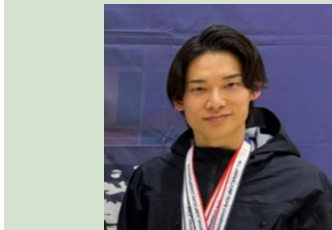


1998年11月12日生。昨年川崎にて行われたAJRU（アジア選手権）にて金メダル2個、銀メダル2個を獲得する快挙を成し遂げた。競技者としては、2021年にコロナ渦のためオンラインで開催されたIJRU Virtual World Championshipsでダブルダッチシングルフリースタイルでの優勝等の戦績を残している。現在はカワサキ文化会館のスクールで教える等、ジャンプロープの普及活動にも力を入れている。

（出場種目）

ダブルダッチスピードスプリント
ダブルダッチスピードリレー
ダブルダッチシングルフリースタイル
ダブルダッチペアフリースタイル

⑥白井 冬馬（シライトウマ）選手

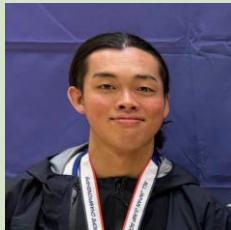


1996年3月11日生。DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2021、2022を連覇したFLYDIGGERZ（フライディガーズ）のメンバー。2022年アメリカで開催されたIJRUも選手として参加。川崎ルフロンにて月一回定期公演を行い、ダブルダッチの普及にも努めている。

（出場種目）

ダブルダッチスピードスプリント
ダブルダッチスピードリレー
ダブルダッチシングルフリースタイル
ダブルダッチペアフリースタイル

⑦杉本 春樹（スギモト ハルキ）選手



2004年7月30日生。小学生からジャンプロープを始め、競技者としては2021年にコロナ渦のためオンラインで開催されたIJRU Virtual World Championshipsでシングルロープスピードリレーで準優勝等の戦績を残している。プレイヤーとして学生シーンの最前線で活躍中。

（出場種目）

ダブルダッチペアフリースタイル

⑧工藤 美怜（クドウ ミレイ）選手



2004年8月3日生。小学生からダブルダッチを始め、キッズ時代から数々の世界大会で優勝という成績を収めてきた。昨年行われたAJRUアジア選手権ではスピードリレーにて準優勝。プレイヤーとして学生シーンの最前線で活躍中。

（出場種目）

ダブルダッチスピードリレー